

令和2年度 公共事業評価委員会 議事概要

日 時：令和2年11月11日（水） 午前9：30～午前10：00

場 所：徳島県庁10階 特別大会議室

出席委員：山中会長，上月委員，奥嶋委員，近藤委員，後藤委員，栗飯原委員

【再評価番号1，2 林道開設事業 広岡池ヶ谷線ほか1路線】

（近藤委員）

林業機械の技術革新が進んでいるなか，事業工期の長い林道開設事業の計画について，どのような見直しがなされているか。

（森林整備課）

これまでの林道は，幅員3.5～4.0mで開設しているが，林業機械が大型化してきており，今後は，より幅員の広い林道が計画されてくる見込みである。

林道には，一級林道から三級林道まであり，それぞれ幅員等の規格が決まっている。特に，一級林道は県内で2路線しかない。今後，要件が緩和され，一級林道が普及していくと考えている。

（奥嶋委員）

両路線とも事業工期が長いなか，事業途中で部分開通している箇所があるように見受けられる。部分開通時の便益は含まれて算出されているのか。完全に開通してからの便益か。

（農林水産基盤整備局長）

便益については，森林整備に関する便益があり，開設中も部分的に森林施業をしているため，部分開通時の便益も含んだ算出となっている。

（上月委員）

豪雨被害もあったとのことであるが，林道構造上の防災対策はしているか。

（森林整備課）

防災対策としては，排水施設を密に入れ，法面については崩れにくい工法を採用するようになっている。

（上月委員）

再評価調書の「社会経済情勢の変化」のところに，一般的に木材を使うだけでなく，木質バイオマス発電にも使うことが書かれている。用途が変わってくると，木材の値段も変わってくると思うが，便益算定の単価も変わってくるのか。

（森林整備課）

あくまでも現時点の木材流通価格で算出している。

(後藤委員)

現地発生木材を利用したマルチや法面保護に加工した丸太を使っているということであるが、豪雨災害などには弱いと思う。危険が伴ってはいけないと思うが、どのように考えているか。

(森林整備課)

地表面の土の流出を防ぐため、現地発生木材を利用した木材チップによるマルチングをしているが、チップが飛ばされないように木柵で囲うなどの工夫も行っている。

(上月委員)

2050年に温室効果ガス「実質ゼロ」という話があるが、林業の施策には関係してこないのか。

(農林水産基盤整備局長)

森林そのものは、吸収源として温室効果ガス吸収に寄与している。工事に関しては、木材利用を補完するものであり、併せて、森林整備を進めることで、吸収量を安定的に維持していくことが森林の役割だと認識している。さらに、都市部の方でも木材を使っていたら、炭素固定量を増やしていけるよう木材利用促進の活動をできたらと考えている。

(近藤委員)

檜尾阿佐線について、終点側は地すべり、起点側は平成30年7月豪雨による被災で停滞していたが、終点側の豪雨災害は復旧が見込まれており工事再開の目途が立ったと説明があったが、地すべりの方は目途は立っているのか。

(森林整備課)

地すべり現象発生時から調査観測をしており、現時点では動きは収束しつつある。来年度、治山事業で対策工を実施し、令和4年度からの工事再開を目指している。

(山中会長)

治山事業や災害復旧事業などのコストは、林道開設のコストに含まれないという考えか。

(森林整備課)

そのとおり。

(山中会長)

林道開設事業は、県内各所で事業展開しており、林業全体のプロジェクトとして考えた時に、どういう優先順位で進めているのか、「プロジェクト型の議論」をしていただきたいと思っている。

各路線で見ると、それぞれに災害や用地問題といった理由があるが、林業プロジェクト全体の最適化を図ることが、優先度をつけながら計画的に事業を行うということに繋がる。

例えば、現在、開設している林道が、どのくらいの路線数で、どのくらいの延長で、どんな優先順位で進めているかという説明があれば、我々県民にも分かりやすい。

また、林道が開通した際には、災害時の迂回路として使えるというような「緊急時の交通機能」も期待できる。そうすると、災害時にきちんと疎通できるよう「維持管理」するなどの視点もあるため、交通機能を持たせる林道とそうではない林道を分けて説明した方がよいと思う。

今後、説明を工夫していただきたい。

(奥嶋委員)

昨今、災害が増えてきており、被災確率も高まってきているように思う。難しいとは思いますが、今後、そのリスクを含めた評価にしていく必要があると感じている。樫尾阿佐線は事業期間も延びているため、効果発現が遅れている。そういうのも含めた計画評価にしていくのが良いと感じた。

(山中会長)

これまで便益の発現状態の説明があったが、開通させることの「残便益」について、林道でも検討いただきたい。

【意見集約・まとめ】

(山中会長)

林道に関しては、残便益を検討しながら戦略的に事業進捗を図ることを附帯意見につけるとし、審議の結果、農林水産部2件のいずれも「継続」でよいか。

(各委員)

異議なし。